

外国映画

『希望のかなた』

安井文 謎の美女

2017年 ユーロスペース 98分

監督・脚本 アキ・カウリスマキ

出演 シェルワン・ハジ、サカリ・クオスマネン

朝、「行ってきます」と家を出て、「ただいま」と帰って来られるのは、当たり前のことじゃない。

フィンランドの巨匠アキ・カウリスマキが監督と脚本を担当した『ル・アーヴルの靴みがき』に続く難民三部作の第二弾となる人間ドラマ『希望のかなた』は、そんな当然のことを私に思い出させた。

石炭運搬船に隠れ、内戦が激化するシリアのアレッポからフィンランドの首都ヘルシンキにたどり着いたシリア人青年、カーリド（シェルワン・ハジ）。ハンガリー国境で生き別れた妹ミリアム（ニロズ・ハジ）と再会することだけが唯一の望みだ。差別や無理解に晒されながら、はみ出し者ばかりが働くレストランのオーナー（サカリ・クオスマネン）に出会い、彼に助けられる。やがて妹と再会するが、その時、二人に笑顔はおろか涙もない。ただ無言で抱き合うだけだ。

物語は淡々と進む。カーリドが難民申請で自分の身の上を語る以外は、ほとんど説明もない。いいことも悪いことも同じ温度で

続いていく。悪いことが起きると誰かの小さな善意が彼を助ける、するとまた悪いことが起きて。それらを受け止めてカーリドは淡々と生きる。ときおり、ストリートミュージシャンが、枯れたギターと歌で気の利いた音楽を奏でる以外は、本当にそっけない人々は不愛想なのに、とても優しく、だんだん、何とかかなりそうな気になってくる。

シリアのアレッポという町の現状をいくら見聞きしても、その町に暮らす人々のことを容易に想像出来るものではない。この不愛想な作品は、それらを淡々とリアルに伝える。

日本では、カーリドと同じ境遇になる可能性は今のところほとんどない。だけど、台風や地震が起きて、家や家族を失い、仮設住宅で暮らす可能性があったら、たいていの日本人は想像できるだろう。ある日突然、家を失い、家族の安否もわからなくなったら。その時感じるものは、カーリドとミリアムが再会の時に感じたものと同じかもしれない。あるいは、彼らを助けた人たちが感じたものと同じかもしれない。

これはどこかの誰かの物語。その誰かは、辛くとも今もどこかで生きている。善意も悪意も同じように存在する世界で、みんな必死に生きている。

ラストシーン、カーリドのおそらく初めての笑顔で、突然、物語はぶつ切り切れる。無音のエンドロールがそっけなくて、少し寂しくなったけど、その笑顔がいつまでも消えなかった

『藍色夏恋』

中村藤生 スタッフ

2002年(仏・台) 84分

監督・脚本 イー・ツイエン

出演 グイ・ルンメイ(モン)、チャン・シーハオ(チェン)
リャン・シューホイ(リン)

2002年に公開、世界各国の映画祭に出品され、台湾でも大ヒット。アジア映画が好きな水野圭次郎さんに紹介してもらい、昨年末に観た。瑞々しい亜熱帯の緑が印象深い。ゴージャンのタヒチの絵が浮かぶ。ヒロインのモン・クローロウ役のグイは2年間を要して発掘された17才。脚本も本人に合わせ変更した。この監督はエドワード・ヤン等の台湾ニューウエーブの次世代を担う。私は今、昨年『クーリンチェ少年殺人事件』エドワード・ヤンに魅せられて以後、アジア映画の中でも台湾監督に惹きつけられている。1本でも多く台湾映画を観たい。

さて『藍色夏恋』(原題 藍色大門)だが17、8才の高校生の青春劇。街路樹をバックに自転車の男子高生のチェンが柄シャツを風にはらませて軽快に走る。そこへ同女子校生モンが駆けてくる。二人の表情から何か起こってくる予感がする。出だしからスピードある展開が無駄無く映像が心地良い。モンには同じクラス

の親密な女友達リンがいる。二人の性格は正反対。モンは考え深く生硬、リンは好きな男子チェンに何も言えず、ただ夢みているだけ。そんなリンはモンに彼との繋ぎをお願いするところからチェンを巡って3人が思わぬ方向へ動きはじめ。チェンは水泳部員、夜中にこっそり一人プールで練習している。そこへ二人は忍び込む。モンがリンに代わってチェンに付き合っている女友達はいるのかと呼びかける。臆病なリンは先に逃げてしまい、俺に付き合って欲しいのはお前だろと思われる。夜のプールは泳ぐ水面に波紋が青い光を受け、壁に青く揺れ映っている。話す声も反響して非常に魅力的だ。照明とカメラワークのコンビポジションがよく合い、シンプルな展開と相まって決まっている。

チェンはモンと波長が合ったのか、付き合いたいと声をかける。彼女の母親がやっている屋台へもよく顔を出す。母親役が非常にいい。寡黙なモンをよく表している。父親はいないようだ。この映画はセリフのある役者が高校生四名、体育教師(男)と母親のみ。青春物によくある群像劇ではない。スピード感ある84分が映画を観た後の余韻を豊かにしてくれる。付き合うのはお互いに面倒だと言っていたが、初デートは昼間の浜辺のロックバンドの会場。二人は楽しそうだ。そして自分に言い聞かせるように「私は女の子、だから男の子が好き」と言い、彼にキスしたいかと唐突に言う。がその後モンは親密なリンとの間を悩むことになる。映画初出演の17才の3人はそれぞれの役柄を个性的かつ自然に演じ

ていて引き込まれる。

モンはリンのことも気になり、夜、家を訪ねるが返事なし。そのまま夜の街路を自転車で走り、ランニング中の体育教師に伴走し、私にキスしたいかと言う。ここにも悩み揺れ動く17才がよく表現されている。或る日、リンが意を決めてモンにチェンを紹介してくれと頼み、二人を会わすがチェンには気が無い。リンが初めて直接告白し答えを出した。きつと次へ進む路が見つかるだろう。

その後、チェンからどうしてリンを紹介したと問い詰められる。モンは夜の浜辺で一人涙ぐむ。最終章、チェンとモンは言葉では心を通じない。学校のホールで体をぶつけ合うしかなかった。その夜、母親のベッドへもぐり込み話す場面がいい。目を閉じたまま娘と語る表情は父親も含まれているように感じ取れた。その後、夏も終わりの街路樹下でチェンとモンの会話はこれまでと違ってひとつ大人に近づいたのだろう、モンの表情がやわらかくなった。思春期の夏の二人、そしてリンも含めた青春を感じて、観るひとは自分なりに憶い出さずにおれない。日本にも数々の青春映画はあるが台湾で生まれた『藍色夏恋』・BLUE GATE CROSSING (青色の正門) は各シーンを私の脳裏に強く焼き付けた。脚本とカメラと出演者がよく重なっている。誰にもあるこどもから大人への思春期の危うさを鮮やかに描いている。

ポルノ

『ジムノペディに乱れる』

林久登 スタッフ

2016年 日活 83分

監督 行定勲

脚本 行定勲、堀泉杏

出演 板尾創路、芦那すみれ、岡村いずみ

ここしばらくは、ポルノらしき映画が上映されていないので、今回は一昨年の日活ロマンポルノ・リブート企画の一本『ジムノペディに乱れる』を取り上げよう。サティの名曲をポルノ映画のタイトルとは洒落ているではないか。

最近の映画は濡れ場シーンでも、オッパイすら見せない不自然な作品が多い。しかし、この作品は違う。さすが、日活が再起を目指した企画だけに、そんなハードルを軽々と超えて、公約通り10分に一回はオッパイ丸出しの絡みを次々と見せてくれる。おー、あの、ポルノが還って来た！

仕事に行き詰った作家のあがきと諦念、彼にはサティが好きな二人目の妻がいるが、今は昏睡状態にある。そんな落ち目の初老

の映画監督古谷（板尾創路）の一週間を描いた作品。

いつもヨレヨレのコートを着て彷徨う古谷。およそクリエイターイブな仕事に関わる男に見えないショボイ監督。主役の女優にドタキャンされ、半ばやけくそになって次々と女と関係していく。

そんな女たちのなかでも、新顔のスレンダーな芦那すみれ（結花）がいい。日活ポルノ世代の雰囲気は持ち合わせていないが、つまり、当時は宮下順子、芹明香、絵沢萌子ら肉感的というか、官能的な女優が中心だった。だが、芦那のような華奢で小悪魔的な雰囲気の出現は何か新しい息吹を感じさせる。監督古谷の前で見せる股開きマスターベーションシーンは圧巻。

映像が素晴らしい。2人目の妻の入院費が払えず、お金の無心で古谷が1人目の妻に会いに行くアトリエーションは白眉だ。四畳半的ポルノの世界から、突然、宇宙空間へ飛び出たような錯覚を伴う爽やかなショット。元妻は脚立に乗って大画面に向かって抽象画を描いている。結局元妻は、別の男と寝て古谷の為に、寝取られた女の入院費を工面する。行定のセンスはやはり卓越している。

主役の板尾創路はお笑いの吉本に所属し監督もやる異色の俳優だ。落ち目の監督役として劇中劇を楽しんでいたのではないか。また、古谷は行定自身の売れなかつた頃の姿ではないのか。金に困り、借金したり、無心したりする様子は、妙にリアリティを感じる。そもそも、映画作家なるもの、巨匠とよばれて荒稼ぎをし

た一握りの人を除けば、おしなべて貧乏だ。収入は不安定だし、製作に金がかかるので、当たらなかつたら悲惨な目に合う。作家性の強い監督は特にそうだろう。

しかし、資金繰りの心配をすることもなく、今回のように自由に撮れるとなると、こんなにも面白い作品が出来るのだ。45年前の日活ロマンポルノから多くの若い作家が出たというのもうなずける。それに今回の尺は70分から80分に拡大されている。この10分の余裕は大きい。一般映画として十分通用するシナリオ構成になる。行定は『GO』以来好きなき監督だが、『世界の中心：』『北の零年』のような大作はつまらない。こういった作品のほうが断然いい。

【ロマンポルノ・リブート企画】

日活より気鋭の監督5人に依頼、完全オリジナル5作品、尺80分、10分に一回の濡れ場、製作費日活担保、撮影期間1週間

